

見つめよう 世界との絆 ～幸せとは～

氏名： 金曾 涼子

学校名： 金沢市立森本小学校

担当教科：

実践教科： 総合的な学習の時間

時間数： 5時間

対象学年： 6年2組

人数： 32人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：見つめよう 世界との絆～幸せとは～

○自分を見つめ、自分の身近な人々や自然とのつながりを大切にする。同時に広く世界に目を向けて、いろいろな国の人々の生活・文化・自然に興味を持ち課題に取り組む


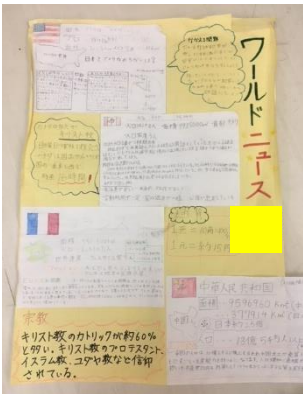
○フィジーの生活の様子、現状を知り、幸せとは何かを考える

○自分のこれからの生き方を考える

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 課題設定力	自分を見つめ、自分の身近な人々や自然とのつながりを大切にする。同時に広く世界に目を向けて、いろいろな国の人々の生活・文化・自然に興味を持ち課題に取り組むことができる
	(イ) 問題解決力	自分で選んだ国のテーマについて計画的に調べ学習を行い、交流活動の中で相手の方との関わり合いを深め、自分の想いや考えを伝えることができる
	(ウ) 表現力	表現の仕方や構成を工夫し、まとめ、調べたことや考えたことを、適した方法でまとめることができる
	(エ) 実践力	自分の変化や成長をよく見つめ、より広い視野に立ってこれからの自分の生き方を考えることができる
【3】 単元設定の理由 ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	(1) 児童観 本学級の児童は国際理解について興味・関心が高く、海外のことについて知りたいと思っている児童が多い。6月に1ヶ月間オーストラリアからの転校生と共に、日本とオーストラリアとの言語や文化の違いを学んだ。自分達と同じ歳の転校生が学校でどのような生活をしているのか大変興味があったようだ。また、10月には中学校のALTを招いて金沢のよさや森本小学校のよさを英語で伝えることができた。その際にはALTの出身国であるアメリカに興味を持ち、スポーツや食文化について質問する姿もあった。さらに11月にはニュージーランドからの大学生と英語で話したり聞いたりする時間もあった。しかし、世界の貧しい国に住む人々がどのような生活を送っているのか、どのような状況にあるのか、現状を知る児童は少ない。 (2) 教材観 本単元は総合的な学習の時間「見つめよう 身近な絆・世界との絆」を受けて設定した。広く世界に目を向け、いろいろな国の人々の生活・文化・自然に興味を持ち調べたことや考えたことをもとに自分を見つめ、自分の身近な人々や自然とのつながりを大切にすることをねらいとしている。そのためまず、自分を見つめ身近な人々との関わりを振り返る。 【個人】 次に、世界に視野を広げ関心をもったことについて深く考える。 【世界について】	

	<p>さらに世界の様子を知り、学んだことを生かして自分には何ができるかを考えるという“個人→世界→個人”の視点で学習する。世界には貧しい国があるということを知ることにとどまらず、自分と関わらせて考えることで問題を解決しようとする力や、自分の課題を設定する力を育成するのに適した教材である。</p> <p>(3) 指導観</p> <p>本単元では現在の自分や周りの環境に目を向け、自分はたくさんの人に支えられていることに気付かせる。さらに身近な関わりから、世界には様々な国があることを知り自分の置かれている状況と比べることで、社会の一員としての役割を考えるきっかけとしたい。</p>
--	--

【4】展開計画（全5時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>「見つめよう 自分のこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分を見つめ、どんな人々にお世話になっているかを考え、目指す自分を考える ・自分から家族、クラスなど身近な関わりのことを考え、さらに世界に目を向けて、自分との関わりを考えようとする 	<p><今の自分を見つめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさは何か考える ・学校の最上級生としてどのように行動していくかを考える <p><もっと広い視野で見つめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分→家族→地域→金沢…世界と自分が関わっている範囲を広げて考える 	<p>「ぼくがラーメンたべるとき」長谷川義史</p>
2, 3	<p>「調べよう 世界の国々」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ国のテーマについて計画的に調べ学習を行い、交流活動の中で友達との関わり合いを深め、自分の想いや考えを伝える ・世界には様々な国があることを知り、それぞれ多様な文化があることに興味をもつ ・表現の仕方や構成を工夫してまとめ、調べたことや考えたことを、適した方法でまとめる ・国が抱える問題についても調べることで、自分の国の抱える問題と比べて考える 	<p><世界の国やテーマについて調べよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい国はどこかを考え、調べたい国を決める ・自分か関心をもった国について人口や面積、言語や服装、文化などについて図書室やインターネットで調べ、分かったことを新聞にまとめる  <p>一人ひとりが PC で調べ学習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べた国についてグループで紹介しあい、世界にはたくさんの国があり、いろいろな文化をもっていることに興味をもつ ・新しく知ったことやさらに知りたいことをグループで交流する 	<p>「体験取材！世界の国々 フィリピン」 ポプラ社</p> <p>「体験取材！世界の国々 カンボジア」 ポプラ社</p> <p>等、他 40 冊（児童が調べ学習に使用）</p>

調べた国についてグループでまとめた新聞

<p>4</p>	<p>「世界がもし 100 人の村だったら」</p> <p>自分の変化や成長をよく見つめ、より広い視野に立ってこれからの自分の生き方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の中で貧しいとされている国のことについて知り、世界の中の日本のことを考える 自分ができるとは何か、また自分の生き方を考える 	<p><途上国について知り、考えたことは></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界には貧しいとされている国はいくつぐらいあるのか知る クイズを通して世界のことを知る 写真から考えたことをペアやグループで話し合い交流する 日本がたくさんの食べ物を廃棄していることを知り、自分たちができるとは何かを考える  <p>板書に位置づけた前時の学習の掲示</p>	<p>パワーポイント 1 ワークシート 1</p>
<p>5 本時</p>	<p>「知ろう フィジーのこと」</p> <p>自分を見つめ、自分の身近な人々や自然とのつながりを大切にする</p> <p>自分の変化や成長をよく見つめ、より広い視野に立ってこれからの自分の生き方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の体験談を聞き、フィジーという国について興味をもつ 	<p><フィジーという国について知り、幸せとは何か自分の考えをまとめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国の一つであるフィジーはどんなところかを知る 担任の体験談やクイズを通して、フィジーの文化に興味を持つ 前時の学びと関連付けて本時での「幸せとはどういうことか」という問いに対する自分の考えを持つ グループで話し合い考えを深める 話し合ったことをもとに再度自分の考えをまとめる JICA スタッフに質疑応答  <p>JICA スタッフ(武田さん)との質疑応答の時間</p>	<p>パワーポイント 2 ワークシート 2</p>
<p>【5】 本時の展開</p>			
<p>過程 時間</p>	<p>学習活動</p>	<p>指導上の留意点 (支援)</p>	<p>資料 (教材)</p>

<p>導入 (5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時を振りかえり、どんなことを考えたか感想を言い合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習したパワーポイントの資料を黒板に掲示し児童が学習内容や自分の想いを思い出せるようにする 	<p>掲示資料</p>
<p>展開 (30分)</p>	<p><フィジーという国について知り、幸せとは何か自分の考えをまとめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ○フィジーの国旗は？ イギリスの国旗があることに着目させ、理由を解説する ○面積は？人口は？ ・途上国の一つであるフィジーはどんなところかを知る ○何をしている映像でしょう(カヴァの儀式の動画) ・担任の体験談やクイズを通して、フィジーの文化に興味を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式の導入により児童に関心を持たせる ・カヴァの儀式の動画では何をしているのか予想をたてて楽しみながら異文化に触れる ・子どもたちに身近な衣食住に関する写真を見せ、自分たちとの違いや初めて知ったことなどを自由に話す ・1枚の写真より、靴を履いていない児童がいることに気付かせる ・前時を振り返り、「幸せとは何か」をもう一度考えさせる 	<p>パワーポイント2</p> <p>ワークシート2</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の様子の写真より気付かせる(靴を履いていない児童、笑顔いっぱい遊ぶ児童、広場で木の板と空き缶で遊ぶ児童) ・前時の学びと関連付けて本時での「幸せとはどういうことか」という問いに対する自分の考えを持つ ・グループで話し合い考えを深める ・話し合ったことをもとに再度自分の考えをまとめる ・学習の振り返りを書く ・全体で交流し、考えを深める ・JICA スタッフに質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を認め、児童が自ら行動に移したいと考えたことを大切にする ・本時の学習で考えたこと、疑問に思ったことなどをワークシートに書かせる 	
<p>【授業実践の様子】</p>			



JICA スタッフ(武田さん)との質疑応答の時間



板書に位置づけた前時の学習の揭示

【6】 本時の振り返り

教師が思っていた以上に児童は幸せについて深く考えていた。「幸せとは」という大人でも答えの出ない難しいテーマや内容ではあったが児童一人ひとりが自分なりの答えを見つけたり、友だち同士で考えを深めたりする姿があった。

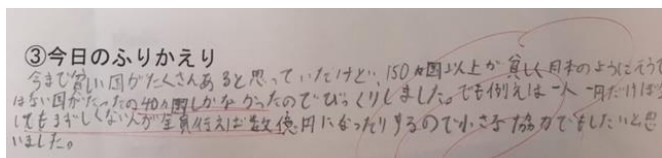
JICA 北陸のスタッフでフィジーに同行した武田さんへの質問では多くの児童が挙手し、途上国のことについて、世界のことについて、JICA という仕事のことについて質問した。児童が自分の将来について広い視野を持って考えることができた。実際にゲストティーチャーのような形で教師以外の人から生の声を聞くことは大切であると感じた。

この授業を通して児童に異文化理解、国際理解を促すことができたと感じた。年間を通して、オーストラリアからの転校生との授業など国際理解や異文化理解の機会が多く与えられていた児童だけに、本時を通してより多くのことを考えてくれたように思う。

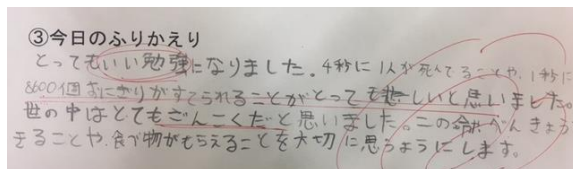
【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

児童の振り返りより

- 1 時間 自分が身の周りの人の支えによって生きていることを感じた。「ぼくがラーメンたべてるとき」では、今まで気にして過ごすことはなかったけれど地球の裏側にいる人々のことを考えた。
- 2、3 時間 調べ学習では自分の気になる国について詳しく調べることができた。グループで新聞を集めるともっとたくさんの国のことが分かった、その国が抱える問題は調べるのが難しかった。
- 4 時間目 とてもいい勉強になった。4秒に1人が命を落としていることや1秒に8600個のおにぎりが捨てられていることがとても悲しいと思った。小さなことでも協力をしていきたい。

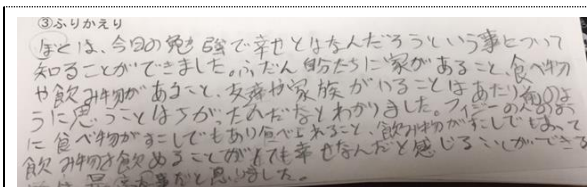


4 時間目 児童の振り返り①



4 時間目 児童の振り返り②

- 5 時間目 今日の勉強で幸せとは何だろうということについて考えた。自分たちに家があること、食べ物や飲み物があること、友達や家族がいることは当たり前のようにおもうのは違ってたんだと感じた。フィジーの人のように食べ物が少しでもあり、食べられること、飲めることがとても幸せなんだと感じることができることが最高なことだと思った。



5時間目 児童の振り返り③

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

- ・途上国というところがあるということは知っているけれど、詳しくは知らない
- ・本で読んだり、テレビで見たりしたことはある
- ・実際にどんな生活をしているのか知りたい

(授業後)

- ・途上国についてよく分かった。辛くて悲しいところというイメージだったけれど違うところもあった。
- ・ぼくは昨日の授業で貧しいということで幸せではないと考えていたけれど今日の授業をみて、貧しいから幸せではないということではないと考えました。幸せなのは笑顔だということや自分にとっての場所があるということが幸せなんだなと思いました。
- ・本当は「幸せ」という言葉にはもっと深い意味があると思いました。
- ・フィジーの人たちにとってフィジーは大切な場所だと思いました。

【8】自己評価

<p>1. 苦勞した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の中に、何を授業として盛り込むかということを中心にしました。英語や国語、他教科の中でフィジーのことを紹介することもあったが、それだけだと異文化への興味関心を持つのみにとどまりかねない。本単元では人々の幸せや笑顔、そこで暮らす人々の思いに焦点をあてたかったため、内容を吟味することに苦勞した。楽しいだけで終わる授業にならないように考える場を多く設けたかった。 ・1時間の中で児童の興味を高める場面と深く考える場面のバランスに苦勞した。
<p>2. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラスで実践を行ったが、他2クラスは途上国について等の予備知識をあまり持たせずに授業に入ってしまったため、内容が難しく感じた児童もいたようだった。また他2クラスに関しては教師の意図する思考の流れ、深さまでに至らなかった部分もあった。クラスの授業時間に応じて、異文化に興味をもつ授業（児童に身近な衣・食・住にポイントをしばったり、動画や写真を事前に多く紹介したり）などの工夫が必要だと感じた。

<p>3. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の海外研修をどのように教材にするか考えることによって、学校での開発教育や国際理解教育の取り組みと教師海外派遣のつながりを考えることができた。実際に見たこと、感じたことを児童に直接語るができるのは、自分が身をもって体験してきたからだと思う。現地で考えたことを大いに児童に還元できたように感じた。今回の授業を機に海外に興味を持ったり、将来の仕事として考えた児童が多くいた。少しでも子どもたちの視野を広げて、世界に目を向けさせることができたのではないかと思う。
<p>4. 備考（授業者による自由記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践授業を授業参観の日とし、保護者の方とも一緒に考える場をもうけた 保護者の方からは「興味深い内容でした。実際に先生の経験したことを聞くのは楽しかったし、家に帰ってから話したり調べたりしました。」と感想をいただいた。 ・同教材を使用し、6年生児童2クラスで授業実践を行った。 (計3クラス 100名) その際校内で公開とし、他の先生が見にこられるようアナウンスをした。 ・中間報告でのパワーポイントを使用し、職員会議で研修報告を行った。

【添付資料】

総合ワークシート

【参考資料】

「ぼくがラーメンたべてるとき」長谷川義史

「体験取材！世界の国々 フィリピン」ポプラ社

「体験取材！世界の国々 カンボジア」ポプラ社 他40冊（児童が調べ学習に使用）

JICA どうなってるの世界と日本

JICA 北陸 「平成26年度 教師海外派遣研修報告書」